

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-4 治安対策の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 環境生活総務課長 山崎 修一 電話番号 0852-22-5778

事務事業の名称	犯罪のない安全で安心なまちづくりの推進	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	県民の防犯意識を高め、防犯に留意したまちづくりを推進することにより、誰もが安全に安心して暮らすことのできる社会の実現を目指す。
事業概要	県民等による自主防犯意識を高めるための普及啓活動や研修会・交流会の開催等により、県民・観光旅行者等、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを推進する。	

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			指標名	犯罪発生率（人口千人当たりの認知件数）	目標値		6.30	6.20	
		認知件数×1,000/総人口	実績値	6.30	6.40	6.20	6.84		
			達成率		98.40	100.00	89.68		%
(2) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			指標名	目標値	0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	2,075	2,316
うち一般財源(千円)	2,075	2,316

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 安全で安心なまちづくりに対する県民の理解と参加促進のため各種普及啓活動（まちづくり旬間開始キャンペーン：約40名参加、まちづくり大会：約120名参加、まちづくり啓発ポスターコンクール：作品応募274点）
- 地域の防犯活動の支援と関係機関相互の連携強化のため地域交流会、まちづくり推進協議会の開催（安来市で地域交流会開催：約100名参加、まちづくり推進協議会開催：86団体が参加）
- 犯罪被害者等支援に対する県民理解と配慮の促進に向けた取組（島根被害者サポートセンターへの広報啓発業務委託：委託料850千円、市町村担当者会議開催、犯罪被害者週間における県立図書館パネル展示など）

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 普及啓活動
  - まちづくり啓発ポスターコンクール過去最高の応募作品が集まる（274作品）
  - 地域の防犯活動の活性化支援等による人・団体・ネットワークづくり
    - 平成23年に事業を開始した子ども・女性みまもり運動実施事業所数が増加した（718事業所）

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- 困っている「状況」
  - 被害防止啓発活動に努めたが特殊詐欺被害が3年連続で2億円を超えた。
  - 防犯ボランティア団体の活動は活発だが、団体数の微減傾向とボランティアの高齢化が課題。
  - 犯罪被害者等支援の相談窓口は県・全市町村に設置されているが、県民の理解・関心の度合いが不十分。
- 困っている状況が発生している「原因」
  - 特殊詐欺被害防止に関する広報啓発が被害対象である高齢者に浸透しきっていない
  - 若い世代の防犯ボランティア活動への興味関心が低く、高齢ボランティアからの世代交代が進んでいない
  - 犯罪被害者等の相談窓口は完備されたものの、県民に対する広報啓発が徹底されていない。
- 原因を解消するための「課題」
  - 県警、民間団体等と連携した高齢者に行き届く特殊詐欺被害防止の広報啓発活動の推進。
  - 若年防犯ボランティアの拡充のため、現役世代のボランティア活動参加意欲の向上。
  - 県警、島根被害者サポートセンター、市町村との更なる連携強化による県民への広報啓発。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 県警、市町村、民間企業・団体等と連携・協働した高齢者に直接働きかける特殊詐欺被害防止の効果的な広報啓発に努める。
- 地域交流会の開催や優良活動団体の表彰等を継続し、防犯ボランティア団体と更に連携を強化し、若年層の防犯ボランティア活動への参加促進に努める。
- 島根被害者サポートセンターへの広報啓発業務委託の継続に加え、市町村の担当課との情報共有・連携を強化し、県民の理解と関心を高める効果的な広報啓発に努める。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）